

不審物処理の手順確認

テロ想定し開園中訓練

鴨川署(君塚裕治署長)は鴨川市の鴨川シーワールドで、不審物件対処訓練を実施した。同園職員や県警本部爆発物処理班員ら約45人が参加。不審物の発見から入園者の安全確保、処理までの一連の流れを確認し、同園との連携強化を図った。

鴨川署と鴨川シーワールド



防爆マットをかぶせた不審物を県警本部爆発物処理班が処理した＝鴨川市の鴨川シーワールド(鴨川署提供)

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、多くの訪日外国人が見込まれることから、人が多く集まる「ソフトターゲット」を標的としたテロへの対策が懸念されている。同園での不審物件を想定した訓練は初めてとなる。

訓練は開園中に実施。入園者が園内のダストボックス横に不審なバッグを見つけたら、職員に通報したと想定。職員がバッグを開けたところ、リード線とタイマーの

ような物が見えたことから同署に通報し、来園者を安全な場所へ避難誘導した。同署員はバッグに爆発に

よる被害を最小限に抑える防爆マットをかぶせ、立ち入り制限区域を設定し、爆発物処理班の出勤を要請。処理班が現場に駆け付け、安全を確保した。

同園の佐藤和巳ゲストリレーション支配人は「繁忙期を間近に控えた時期の訓練と連携確認は貴重な経験になった」と総括。君塚署長は「引き続き施設管理者と連携した訓練を行い、連携強化と対処能力の練度向上を図っていく」とコメントした。